

平成16年3月期 第3四半期業績の概況（連結） 平成16年2月13日

上場会社名 名古屋鉄道株式会社 （コード番号：9048 東証・名証第一部）

（URL <http://www.meitetsu.co.jp>）

代表者 取締役社長 木村 操
 問合せ先責任者 専務取締役関連事業部長 坂井 昌治 (TEL(052)571-2111)

1. 四半期業績の概況の作成等に係る事項

会計処理の方法の最近連結会計年度における認識の方法との相違の有無 : 有（工事負担金等の会計処理）
 連結及び持分法の適用範囲の異動の状況 : 有
 連結（新規） 3社 （除外） 15社
 持分法（新規） 1社 （除外） 2社

2. 平成16年3月期第3四半期の業績概況（平成15年4月1日～平成15年12月31日）

（1）経営成績（連結）の進捗状況 （注）記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

	売上高	営業利益	経常利益	当期（四半期）純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円
平成16年3月期第3四半期	568,505	23,518	18,165	9,285
（参考）平成15年3月期	798,926	31,696	23,870	47,385

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後1株当たり当期純利益
	円 銭	円 銭
平成16年3月期第3四半期	11.34	10.74
（参考）平成15年3月期	57.85	-

（注）四半期決算の開示は、当年第1四半期より実施しておりますので、前年同四半期（15年3月期 第3四半期）の実績は記載しておりません。また、前年同四半期との比較についても行っておりません。

[経営成績（連結）の進捗状況に関する定性的情報等]

わが国経済は、輸出や設備投資が持ち直すなど一部で明るい兆しが見られましたが、当社及び当社グループを取り巻く経営環境は、個人消費の長期にわたる低迷に加え、規制緩和をはじめとする社会経済の構造変化の影響を受け、依然厳しい状況下にあります。

このような状況の中、当年第3四半期（平成15年4月1日から平成15年12月31日まで）における当社グループの営業収益は5,685億5百万円、営業利益は235億18百万円となりました。

なお、当年第3四半期において新たに設立された、(株)名鉄システム開発<新>、華陽自動車興業(株)<新>及びセントレアホテル(株)の3社を連結の範囲に含めております。

一方、日本ライン観光(株)、三河交通(株)、(株)めいてつホームショッピング、(株)名鉄システム開発<旧>、国土観光(株)及び(株)名古屋スポーツガーデンの6社は、解散結了により消滅したほか、大阪名鉄タクシー(株)、大阪名鉄観光バス(株)及び名鉄神戸観光自動車(株)の3社は、株式の売却により子会社でなくなったため連結の範囲から除外しております。

また、名古屋電気工業(株)は従来連結子会社であった名古屋電子エンジニアリング(株)及び名鉄エンジニアリング(株)と合併し、商号を(株)メイエレクトクに変更し、名鉄自動車整備(株)は従来連結子会社であった福井名鉄自動車整備(株)及び(株)名鉄カードックと、新設された華陽自動車興業(株)<新>は従来連結子会社であった華陽自動車興業(株)<旧>と、中央アルプス観光(株)は従来連結子会社であった(株)駒ヶ根リゾートと、それぞれ合併しております。

また、(株)ミヤコーが新たに関連会社となり、持分法を適用しております。

事業の種類別セグメントの業績の概況は、次のとおりであります。

(運輸事業)

鉄軌道事業については、当社では、上飯田連絡線が平成15年3月に開通し当社小牧線と名古屋市営地下鉄上飯田線との相互直通運転を開始し、愛知県尾張北部と名古屋市都心への移動時間が大幅に短縮されたほか、平成15年10月に豊田線及び三河線知立～猿投間に、名古屋市営バス・地下鉄等とのカードによる共通利用システム「トランパス」を導入するなど利便性の向上に努めております。

バス事業については、当社をはじめグループ各社においても不採算路線の廃止及び再編成を行い効率化に努めましたが、当社において名古屋・高針線を新設するなど近距離都心直行高速バスを中心に新規路線を開拓し利用促進を図っております。

タクシー事業については、「道路運送法」改正による増減車や新規参入の規制緩和により、運賃の低下傾向にありますが、接客サービスの向上に一層努めるとともに車輛の効率的な配置転換による利便性の向上もはかってまいりました。

トラック事業については、取扱貨物量の減少と運賃の低下傾向に加え、「NOx・PM法」やスピードリミッターの装着義務化の開始などに伴い運行の安全管理及び環境保全対策強化のコスト増加要因も重なりましたが、運行部門の勤務体制の見直しを行い運行効率を向上させるなど合理化を推進したほか、幹線輸送のダイヤ化等の高品質の輸送サービスの提供に努めております。

航空事業については、コンピューター路線の全日本空輸(株)とのコードシェア便を新規就航したほか、海運事業については、多様化する利用形態に合わせた料金体系を新たに設定するなど、それぞれ需要の喚起に努めました。

この結果、運輸事業の営業収益は2,600億57百万円となり、営業利益は167億78百万円となりました。

(不動産事業)

不動産賃貸業については、当社では、多様化する需要に合わせて名駅地区の賃貸施設の拡充・改装を進めて増収に努めておりますほか、不動産分譲業については、名鉄不動産(株)においてマンション分譲販売が堅調に推移しております。この結果、不動産事業の営業収益は580億58百万円となり、営業利益は94億37百万円となりました。

(レジャー事業)

ホテル業については、法人需要は依然低迷しておりますが、名鉄グランドホテルではポイントカード「MGカード」を導入したほか、ホテル穂高では平成15年4月に穂高連峰のロケーションにマッチした明るい山小屋風のリニューアルオープンするなど、新規需要の開拓に努めました。

観光施設については、当社では明治村で「明治萬国博覧会」を、リトルワールドで「スペインサーカス」や「新シルクロードサーカス」を開催したほか、平成15年10月から柔軟かつ機動的な事業活動を展開するため、レジャー事業部門及びスポーツ事業部門を子会社である(株)名鉄インプレスに営業譲渡及び運営委託を行っております。

旅行業については、イラク戦争と新型肺炎(SARS)の発生の影響により著しく減少した旅行需要は旅行単価の下落傾向にありますが、国内向個人旅行を中心に回復傾向にあります。

この結果、レジャー事業の営業収益は644億6百万円となり、営業損失は30億12百万円となりました。

(流通事業)

百貨店業については、デフレ傾向を反映して購買単価の低下や法人需要の低迷が続くうえ、周辺と同業店大規模改装や増床が続く厳しい商業環境にありますが、(株)名鉄百貨店では新ショップ・新ブランドの導入により本店セブン館を中心にフロア構成の見直しなどを行い、多様化する顧客ニーズにあった店舗展開を行っております。

ストア業については、大型ショッピングセンターが相次ぎ出店するなど地域商圈に大きな変化が見られるなか、(株)名鉄パレでは店舗改装を行ったほか、ポイントカード「パレプラスカード」など顧客サービスの向上に努めております。

この結果、流通事業の営業収益は1,805億66百万円となり、営業利益は10億27百万円となりました。

また、当社と(株)名鉄百貨店では、「名鉄グループ新中期経営計画」に基づいて名駅地区の商業施設の一体的な再編及び経営戦略の一元化を進めるため、同社を完全子会社化し、経営効率の向上を図ることに致しました。

(その他の事業)

保守設備事業については、平成15年4月に名古屋電気工業(株)が、連結子会社であった名古屋電子エンジニアリング(株)と名鉄エンジニアリング(株)と合併したほか、名鉄自動車整備(株)が子会社2社と合併するなど、各社において間接部門の経費削減に積極的に取り組みました。

空港関連事業については、イラク戦争及び新型肺炎(SARS)の発生により国際線利用客が減少していましたが、徐々に回復傾向にあります。

この結果、その他の事業の営業収益は508億23百万円となり、営業損失は9億50百万円となりました。

(2) 財政状態(連結)の変動状況

	総資産	株主資本	株主資本比率	1株当たり株主資本
	百万円	百万円	%	円 銭
平成16年3月期第3四半期	1,301,707	151,592	11.6	185.19
(参考)平成15年3月期	1,296,531	127,862	9.9	156.14

(注) 四半期決算の開示は当年第1四半期より実施しておりますので、前年同四半期(15年3月期 第3四半期)の実績は記載しておりません。また、前年同四半期との比較についても行っておりません。

[財政状態(連結)の変動状況に関する定性的情報等]

当社においては平成15年6月開催の定時株主総会においての決議に基づき、別途積立金及び利益準備金の全額並びに資本準備金の一部を取崩し、欠損填補しております。

(参考1) 第3四半期個別経営成績等の概況(平成15年4月1日 ~ 平成15年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円
平成16年3月期第3四半期	90,728	16,216	11,418	5,831

	総資産	株主資本
	百万円	百万円
平成16年3月期第3四半期	825,595	154,951

3. 平成16年3月期の連結業績予想(平成15年4月1日 ~ 平成16年3月31日)

	予想売上高	予想経常利益	予想当期純利益	1株当たり予想当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
通 期	780,000	25,600	21,000	25.65

当社グループを取り巻く経営環境は依然として厳しい状況が続いておりますが、当社グループは、昨年1月に策定した「名鉄グループ新中期経営計画」の実現に向けて経営に邁進しております。

当年第3四半期までの売上高は概ね順調に推移し、営業費において人件費の抑制をはじめ経費の削減と支払利息等の金融収支の改善が寄与しております。こうした業績の進捗状況を勘案した結果、平成16年3月期の経常利益及び当期純利益は、平成15年11月25日発表の数値を上回る見込であります。個別の業績予想については、前回発表の業績予想からの変更はありません。

なお、この業績予想は発表日現在で入手可能な情報に基づき作成したものでありますので、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。今後の事業の推移により変更が見込まれる場合には、適宜、修正開示致します。

(参考2) 平成16年3月期の個別業績予想(平成15年4月1日 ~ 平成16年3月31日)

	予想売上高	予想経常利益	予想当期純利益	1株当たり年間予想配当金		
				中 間	期 末	
	百万円	百万円	百万円	円 銭	円 銭	円 銭
通 期	121,000	13,000	15,000	—	2.50	2.50

以上

添付資料

四半期連結(要約)貸借対照表

科 目	平成 16 年 3 月期第 3 四半期	平成 15 年 3 月期
	(平成 15 年 12 月 31 日現在)	(平成 15 年 3 月 31 日現在)
(資産の部)	百万円	百万円
流動資産	245,255	255,493
現金及び預金	42,984	50,198
受取手形及び売掛金	67,915	75,726
有価証券	158	66
分譲土地及びたな卸資産	99,433	94,729
繰延税金資産	3,971	5,991
その他	31,746	30,010
貸倒引当金	953	1,228
固定資産	1,056,256	1,040,786
有形固定資産	875,919	872,396
無形固定資産	12,440	12,936
投資その他の資産	167,897	155,453
投資有価証券	103,181	78,304
繰延税金資産	30,677	41,149
その他	38,341	36,463
貸倒引当金	4,303	4,309
繰延資産	195	250
資産合計	1,301,707	1,296,531
(負債の部)	百万円	百万円
流動負債	554,162	580,784
支払手形及び買掛金	87,203	98,477
短期借入金	295,387	313,593
1年以内に償還する社債	15,000	33,028
繰延税金負債	119	23
従業員預り金	36,030	37,095
その他	120,420	98,566
固定負債	576,380	568,183
社債	140,917	145,417
長期借入金	301,869	285,794
繰延税金負債	45,312	45,229
退職給付引当金	54,351	51,972
連結調整勘定	753	1,008
その他	33,177	38,760
負債合計	1,130,542	1,148,967
(少数株主持分)		
少数株主持分	19,573	19,701
(資本の部)		
資本金	74,357	74,357
資本剰余金	6,040	54,069
利益剰余金	7,955	48,503
土地再評価差額金	44,492	43,722
その他有価証券評価差額金	21,514	7,517
為替換算調整勘定	2,332	2,927
自己株式	435	374
資本合計	151,592	127,862
負債、少数株主持分及び資本合計	1,301,707	1,296,531

四半期連結(要約)損益計算書

	平成16年3月期第3四半期 平成15年4月 1日から 平成15年12月31日まで	平成15年3月期 平成14年4月 1日から 平成15年3月31日まで
	百万円	百万円
営業収益	568,505	798,926
営業費	544,987	767,230
1 運輸業等営業費 及び売上原価	482,167	681,318
2 販売費 及び一般管理費	62,819	85,912
営業利益	23,518	31,696
営業外収益	4,232	6,536
営業外費用	9,585	14,362
経常利益	18,165	23,870
特別利益	5,868	11,601
特別損失	6,162	96,494
税金等調整前四半期(当期) 純利益又は純損失()	17,871	61,022
法人税、住民税 及び事業税	5,296	7,112
法人税等調整額	3,734	21,151
小計	9,031	14,039
少数株主損益	444	402
四半期(当期)純利益 又は純損失()	9,285	47,385

・ 四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(会計方針の変更)

前期まで当社及び一部の連結子会社は、工事負担金等について、工事完成時に当該工事負担金等相当額を取得した固定資産の取得原価から直接減額して計上しておりましたが、当四半期から取得原価の総額を固定資産に計上する会計処理方法に変更いたしました。

なお、この変更による当四半期の損益に与える影響は軽微であります。

セグメント情報

【事業の種類別セグメント情報】

<平成16年3月期第3四半期（平成15年4月1日～平成15年12月31日）>

	運輸事業	不動産事業	レジャー事業	流通事業	その他の事業	計	消 去 又 は 全 社	連 結
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円
営業収益及び営業損益								
営業収益								
(1) 外部顧客に対する営業収益	256,568	49,661	60,577	172,673	29,024	568,505	-	568,505
(2) セグメント間の内部営業収益 又は振替高	3,489	8,396	3,829	7,892	21,799	45,406	(45,406)	-
計	260,057	58,058	64,406	180,566	50,823	613,912	(45,406)	568,505
営業費用	243,279	48,620	67,418	179,538	51,774	590,633	(45,406)	544,987
営業利益又は営業損失()	16,778	9,437	3,012	1,027	950	23,279	239	23,518

<平成15年3月期（平成14年4月1日～平成15年3月31日）>

	運輸事業	不動産事業	レジャー事業	流通事業	その他の事業	計	消 去 又 は 全 社	連 結
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円
営業収益及び営業損益								
営業収益								
(1) 外部顧客に対する営業収益	344,164	68,116	92,633	245,659	48,353	798,926	-	798,926
(2) セグメント間の内部営業収益 又は振替高	5,203	10,768	5,295	12,836	35,383	69,487	(69,487)	-
計	349,368	78,884	97,928	258,495	83,737	868,414	(69,487)	798,926
営業費用	332,960	66,156	99,487	257,139	80,900	836,645	(69,414)	767,230
営業利益又は営業損失()	16,407	12,728	1,559	1,356	2,836	31,769	(72)	31,696

(注) 1. 事業区分は日本標準産業分類をベースにした区分によっております。

2. 各事業の主要な内容

- (1) 運輸事業……………鉄道、乗合・貸切バス、タクシー、トラック、海運
- (2) 不動産事業……………不動産の分譲・賃貸
- (3) レジャー事業……………ホテル・レストラン・観光施設の経営、旅行あつ旋
- (4) 流通事業……………百貨店・ストア業、石油製品等の販売、商品販売
- (5) その他の事業……………設備の保守・整備、建設、情報処理等